

外為ウィークリービューⅢ 南半球編

先週までの為替相場のレビューと、今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2011/04/11

「リスク・オン」の動きが強まる

通貨ペア	基調		ページ数
<u>豪ドル/円</u>	➡	金利差と中国のインフレ動向に注目 予想レンジ: 86.60 ~ 92.20 円	2 - 3
<u>NZドル/円</u>	➡	利下げ観測は大きく後退 予想レンジ: 62.30 ~ 68.70 円	4 - 5
<u>ランド/円</u>	↘	商品相場の上昇が支え 予想レンジ: 12.00 ~ 13.10 円	6 - 7
<u>経済指標 カレンダー</u>	一週間の予定を一覧で表示		8 - 9

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします

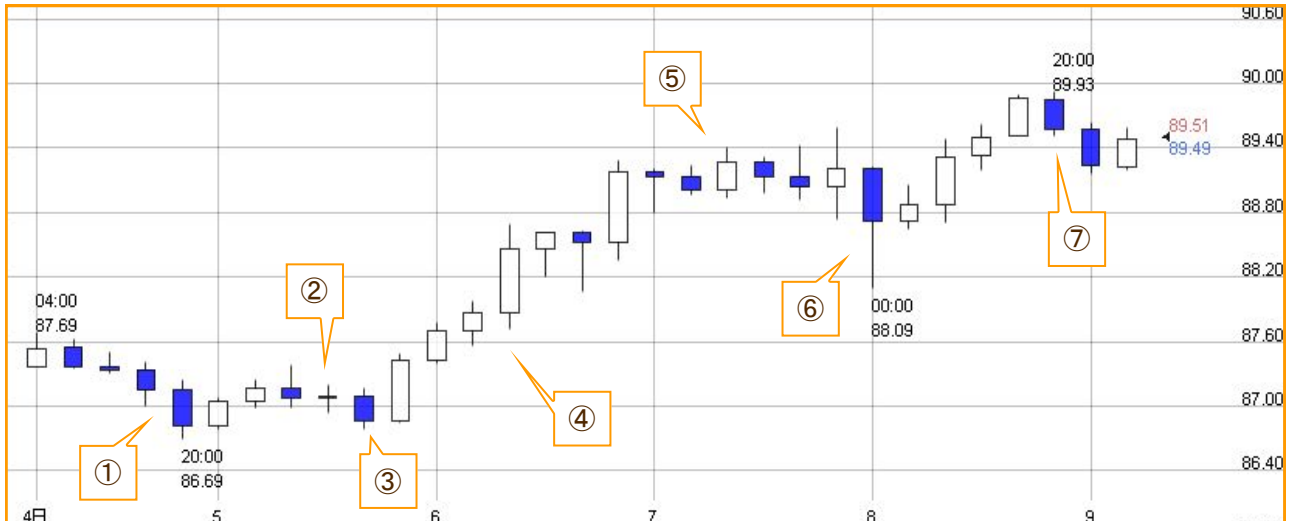


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

AUD/JPY

豪ドル/円 4/4~8の主な推移



4/4 Monday	3月下旬からこれまでの急速な上昇に対する警戒感から、5日の豪準備銀行(RBA)理事会を前に持ち高調整の豪ドル売りが優勢となり、豪ドル/米ドルの下げに連れて豪ドル/円は86.69円まで下落(①)。
4/5 Tuesday	RBA理事会では市場の予想通り、政策金利を年4.75%にて据え置いた。またその後の声明文も前回とあまり変わらない内容が伝えられると、豪ドル/円相場は小動きとなった(②)。その後中国の0.25%の利上げ実施を受け、中国経済の減速懸念が中国と経済的結び付きの強い豪州経済にも及ぶとの観測から、豪ドル/円は一時86.78円まで値を下げた(③)。
4/6 Wednesday	5日夜半過ぎに公表された米連邦公開市場委員会(FOMC)議事録にて、米雇用の改善傾向が指摘されたことを好感して、ドル/円が上昇した。この動きは6日朝になっても続き、豪ドル/円はこの円売りに連れて値を上げた(④)。
4/7 Thursday	豪3月失業率は4.9%と予想(5.0%)以上に改善、新規雇用者数も3.78万人増と予想(2.4万人増)を上回る強い結果が好感され、豪ドル/円は89.41円まで上昇した(⑤)。ただその後、「宮城県沖でM7.4の地震が発生し、東北電力女川原発で一部電気系統が使用不能」と伝えられると、NYダウ平均が前日比100ドル近く下落。株価急落を受けて市場ではリスク回避の動きが強まり、豪ドル/円は88.09円まで下落した(⑥)。
4/8 Friday	原油価格の上昇や、時間外のNYダウ平均先物の上昇を背景にリスクを積極的に取る動きとなり、豪ドル/円は一時2008年9月以来となる89.93円まで上昇した(⑦)。

上昇要因(豪ドル高・円安)

- ・日本と豪州の金利差
- ・世界経済の回復期待の強まり、懸念の後退
→リスクを取ることに積極性が増す
→主要国株価の上昇
- ・豪州の利上げ再開観測
- ・原油などの資源価格の上昇
- ・本邦及びG7の円売り介入

下落要因(豪ドル安・円高)

- ・世界経済の回復期待の後退、先行き懸念
→リスクを取ることに消極的になる
→主要国株価の下落
- ・原油などの資源価格の下落
- ・中国の金融引き締め観測
- ・中国経済の減速懸念

巻末の特記事項を必ずお読みください。

AUD/JPY

今週の見通し

今週、豪州では主だった経済指標の発表が予定されていない。ただ15日には、中国の3月消費者物価指数(CPI)の発表が予定されており、豪ドル/円相場を動かす可能性がある。今月5日、中国はインフレ抑制を目的に利上げを実施したばかりではあるが、もし市場予想(前年比+5.2%)を上回るインフレの高進が示されれば、中国の追加金融引き締め観測が高まろう。それにより中国経済の減速が懸念され、中国と経済的結び付きの強い豪州経済にも影響が及ぶとの観測が強まる場合、豪ドル/円は弱含む場面も予想される。ただしインフレが抑制され、中国経済が安定的に成長できるとの見方が市場で強まる場合、豪州経済も安定的な成長が期待され、豪ドル/円の上昇要因となる可能性もある。そのほか中国の第1四半期国内総生産(GDP)にも注意したい。

一方、他の主要国と日本との金利差の拡大を背景にした円売りの地合いが続くことが予想され、今週の豪ドル/円は底堅い動きが予想される。ただ豪ドル/円は3月後半より調整らしい下げが無い中で上昇しており、欧米での金融引き締め観測の後退や、株安などによるリスク回避ムードが強まる場面など、何らかのきっかけで調整局面入りとなる可能性がある点には注意したい。(川畑)

(予想レンジ: 86.60~92.20 円)

テクニカル分析

〔移動平均線〕

20日線

60日線

200日線

〔ボリンジャーバンド〕

+2シグマ

-2シグマ



●AUD/JPY 4/8週足引値:89.49円 (日足、移動平均、ボリンジャーバンドから見る相場展開)

豪ドル/円は3月後半より上昇基調が続いている。足形を見ると陰線をつける日も出てくるなど、上昇の勢いが失われつつあるように見えるが、4/8の足形は年初来高値を更新して陽線引けとなるなど、現時点では上昇の勢いが止まったとは考えにくい。今週も高値警戒感が漂う中、上値模索の動きが先行しそうである。

ボリンジャーバンドは4/8現在、上限:91.21円~下限:76.74円と、バンド幅は引き続き上下に拡大。依然として上昇トレンド継続を示している。

移動平均は20日線(4/8時点では83.98円)が60日線(同、83.28円)を上抜いた。また線の傾きも、200日線(同、80.93円)を含めいずれも上向きとなっており、現状が上昇トレンドにあることを示している。

上値ポイントは①90.44円(2010年高値88.04円~同年安値71.85円の値幅16.19円を、3/17安値74.25円に加えた値)、②91.21円(バンド上限)、③92.20円(4/8時点での、2008年高値107.79円と2009年高値104.43円を結んだ線)であり、下値ポイントは①88.09円(4/7安値)、②87.64円(4/6安値)、③86.69円(4/4安値)である。(川畑)

NZD/JPY

NZドル/円 4/4~8の主な推移



4/5 Tuesday	NZのイングリッシュ財務相が「追加利下げが必要となれば驚き」と発言。これによりNZの利下げ観測は後退し、NZドル/円は小幅高となった(①)。
4/6 Wednesday	5日夜半過ぎに公表された米連邦公開市場委員会(FOMC)議事録にて、米雇用の改善傾向が指摘されたことを好感して、ドル/円が上昇した。この動きは6日朝になっても続き、NZドル/円はこの円売りに連れて値を上げた。またその後はNYダウ平均の上昇を背景にリスクを取ることに積極的となる機運が高まり、NZドル/円はNY市場にて一時、昨年5月以来となる66.71円まで一段と上昇した(②)。
4/7 Thursday	豪3月雇用統計の強い結果を受け、豪ドル買い・NZドル売りが強まると、NZドル/円はこのNZドル売りに連れて下落(③)。さらにその後、「宮城県沖でM7.4の地震が発生し、東北電力女川原発で一部電気系統が使用不能」と伝えられると、NYダウ平均が前日比100ドル近く下落。株価急落を受けて市場ではリスク回避の動きが強まり、NZドル/円は一時65.43円まで値を下げた(④)。
4/8 Friday	時間外のNYダウ平均先物の上昇により、リスクを積極的に取る動きとなったことや、原油価格の上昇による豪ドル/円の上昇を背景に、NZドル/円は一時66.64円まで反発した(⑤)。

上昇要因(NZドル高・円安)

- ・世界経済の回復期待の強まり、懸念の緩和
→リスクを取ることに積極性が増す
→主要国株価の上昇
- ・NZの追加利上げ観測
- ・本邦及びG7の円売り介入

下落要因(NZドル安・円高)

- ・世界経済の回復期待の後退、先行き懸念
→リスクを取ることに消極的になる
→主要国株価の下落
- ・NZの追加利上げ観測の後退
- ・中国の金融引き締め観測

NZD/JPY

今週の見通し

今週NZでは、主だった経済指標の発表が予定されていない。ただ15日には、中国の3月消費者物価指数(CPI)や第1四半期国内総生産(GDP)などの発表が予定されている。もしCPIにて中国国内でのインフレの高進が懸念され、中国の追加金融引き締め観測が高まる場面では、中国と経済的結び付きの強い豪州経済にも影響が及ぶとの観測から、豪ドル/円は弱含む場面が予想され、一時的にNZドル/円は連れ安となることも考えられる。

一方で先週に続き、他の主要国と日本との金利差の拡大を背景にした円売りの地合いが続くと見られ、NZドル/円は底堅い動きが予想される。ただNZドル/円は3月後半より調整らしい下げが無い中で上昇しており、欧米での金融引き締め観測の後退や、株安などによるリスク回避ムードが強まる場面など、何らかのきっかけにより調整局面入りとなる可能性がある点には注意したい。(川畑)

(予想レンジ: 62.30~68.70円)

テクニカル分析

〔移動平均線〕

20日線

60日線

200日線

〔ボリンジャーバンド〕

+2シグマ

-2シグマ



●NZD/JPY 4/8週足引値66.27円 (日足、移動平均、ボリンジャーバンドから見る相場展開)

NZドル/円は3月後半より連騰が続くも、4/6高値(66.71円)後は67円の節目が上値抵抗となりつつある。今週は67円台を巡る攻防に注目したい。また上得の重さが意識される場合、相場は調整局面入りとなることも考えられる。

ボリンジャーバンドは4/8現在、上限: 67.81円~下限: 55.98円であり、バンド幅は上下に拡大し、上昇トレンド継続を示唆している。ただローソク足がバンド上限から脱落しつつあり、ローソク足がバンド上限に届かないようだと、目先は下押し局面入りとなる可能性もある。

移動平均は20日線(4/8時点では61.90円)、60日線(同、62.23円)、200日線(63.26円)いずれも上向きとなっている。今後20日線が60日線や200日線を上抜くようだと、上昇は息の長いものとなる可能性もありそうだ。

上値ポイントは①66.71円(4/6高値)、②67.17円(2008年9月安値)、③68.72円(4/8時点での、2009年10月高値69.69円と、2010年5月高値69.34円を結んだ線)であり、下値ポイントは①65.14円(4/6安値)、②64.22円(1/27高値)、③62.30円前後(60日線や200日線が位置)である。(川畑)

ZAR/JPY

ランド/円 4/4~8の主な推移



<p>4/6 Wednesday</p>	<p>5日夜半過ぎに公表された米連邦公開市場委員会 (FOMC) 議事録にて、米雇用の改善傾向が指摘されたことを好感して、ドル/円が上昇した。この動きは6日朝になっても続き、ランド/円はこの円売りに連れて値を上げた。またその後はNYダウ平均の上昇を背景にリスクを取ることに積極的となる機運が高まり、NY市場にてランド/円は一時12.75円まで上昇した(①)。</p>
<p>4/7 Thursday</p>	<p>「宮城県沖でM7.4の地震が発生し、東北電力女川原発で一部電気系統が使用不能」と伝えられると、NYダウ平均が前日比100ドル近く下落。株価急落を受けて市場ではリスク回避の動きが強まり、ランド/円は一時12.59円まで下落した(②)。</p>
<p>4/8 Friday</p>	<p>原油や金、時間外のNYダウ平均先物の上昇によりリスクを積極的に取る動きとなる中、米長期金利の上昇に伴いドル/円が上昇した。この動きに連れる形で、ランド/円は一時2010年4月以来となる12.84円まで値を上げた(③)。</p>

上昇要因(ランド高・円安)

- ・日本と南アの金利差
- ・世界経済の回復期待の強まり、懸念の緩和
→リスクを取ることに積極性が増す
→主要国株価や資源価格の上昇
- ・新興国への投資の機運の高まり
- ・利下げ懸念の後退
- ・本邦及びG7の円売り介入

下落要因(ランド安・円高)

- ・世界経済の回復期待の後退、先行き懸念
→リスクを取ることに消極的になる
→主要国株価や資源価格の下落
- ・南ア経済の低迷

巻末の特記事項を必ずお読みください。

ZAR/JPY

今週の見通し

今週南アフリカでは、主だった経済指標の発表が予定されていない。先週に続き、金や原油価格の上昇によりリスクを積極的に取る動きとなる場面や、他の主要国と日本との金利差の拡大を背景にした円売りが強まる場面では、ランド/円は底堅い推移が予想される。

ただランド/円は3月後半より、調整らしい下げが無い中で上昇している。欧米での金融引き締め観測の後退や、株安などによるリスク回避ムードが強まる場面など、何らかのきっかけにより調整局面入りとなる可能性がある点には注意したい。(川畑)

(予想レンジ:12.00~13.10円)

テクニカル分析

〔移動平均線〕
 20日線 60日線 200日線
 〔ボリンジャーバンド〕
 +2シグマ -2シグマ



●ZAR/JPY 4/8週足引値:12.73円 (日足、移動平均、ボリンジャーバンドから見る相場展開)

ランド/円は上昇基調が続いており、4/8には一時12.84円まで上昇した。ただ直近の足形を見ると、上下にヒゲが目立ち、実体部が少ない。仮に現在の値動きが4/6の陽線実体部の中でのみみ合いとすると、現在は攻防の分岐点にあると推測され、陽線実体部から放れた方向に、次の相場の方向感が出ることも考えられる。

ボリンジャーバンドは4/8現在、上限13.01円～下限:10.97円と、バンド幅が拡大。上昇トレンドの継続を示唆している。4/8高値を超える動きを見せる場合、まずはバンド上限に迫れるかがポイントとなる。

移動平均は20日線(4/8時点では11.99円)、60日線(同、11.75円)、200日線(同、11.82円)いずれも上向きとなっている。今後60日線が200日線も上抜くようだと、上昇トレンドは息の長いものになる可能性も出てくる。

上値ポイントは①12.84円(4/8高値)、②13.01円(バンド上限)～13.05円(昨年4/5高値)、③13.70円(2006年高値19.74円～2008年安値7.66円の値幅12.08円の1/2戻し)であり、下値ポイントは①12.57円(4/6安値)、②12.43円(4/4安値)、③11.99円(20日線)～12.06円(3/10高値)である。(川畑)

巻末の特記事項を必ずお読みください。

経済指標カレンダー (4/11~14)

日付	時刻	注目度	経済指標、イベント等	前回	予想
4/11 (月)	08:50		(日) 2月機械受注 [前月比]	+4.2%	-1.1%
			(日) 2月機械受注 [前年比]	+5.9%	+9.0%
4/12 (火)	08:50		(日) 日銀金融政策決定会合議事要旨 (3月14日分)	—	—
	08:50		(日) 3月マネーストックM2+CD [前年比]	+2.4%	+2.5%
	15:00		(独) 3月消費者物価指数・確報 [前月比]	+0.5%	+0.5%
			(独) 3月消費者物価指数・確報 [前年比]	+2.1%	+2.1%
	17:30		(英) 2月商品貿易収支	-70.57億GBP	-83.00億GBP
	17:30	◎	(英) 3月消費者物価指数 [前月比]	+0.7%	+0.6%
		◎	(英) 3月消費者物価指数 [前年比]	+4.4%	+4.5%
	17:30		(英) 3月小売物価指数 [前月比]	+1.0%	+0.7%
	18:00	○	(独) 4月ZEW景況感調査	14.1	10.0
	18:00		(ユーロ圏) 4月ZEW景況感調査	31.0	—
	21:30		(加) 2月新築住宅価格指数 [前月比]	+0.2%	—
	21:30		(加) 2月国際商品貿易	+1億CAD	+8億CAD
	21:30		(米) 3月輸入物価指数 [前月比]	+1.4%	+2.0%
	21:30	○	(米) 2月貿易収支	-463億USD	-443億USD
	22:00	○	(加) 加中銀政策金利発表	1.00%	—
	27:00		(米) 3月月次財政収支	-2225億USD	—
4/13 (水)	17:30	○	(英) 3月失業保険申請件数	-1.02万人	—
	17:30	○	(英) 3月失業率	4.5%	—
	18:00		(ユーロ圏) 2月鉱工業生産・季調済 [前月比]	+0.3%	+0.7%
	21:30	◎	(米) 3月小売売上高 [前月比]	+1.0%	+0.5%
		◎	(米) 3月小売売上高 [前月比: 除自動車]	+0.7%	+0.7%
	23:00		(米) 2月企業在庫 [前月比]	+0.9%	+0.8%
	27:00	○	(米) 米地区連銀経済報告(ページブック)	—	—
4/14 (木)	17:00		(ユーロ圏) ECB月例報告	—	—
	21:30	◎	(米) 4/9までの週の新規失業保険申請件数	38.2万件	—
		○	(米) 3月生産者物価指数 [前月比]	+1.6%	+1.1%
		○	(米) 3月生産者物価指数 [コア: 前月比]	+0.2%	+0.2%
		○	(米) 3月生産者物価指数 [前年比]	+5.6%	+6.3%
		○	(米) 3月生産者物価指数 [コア: 前年比]	+1.8%	+1.9%

巻末の特記事項を必ずお読みください。

経済指標カレンダー (4/15)

日付	時刻	注目度	経済指標、イベント等	前回	予想
4/15	11:00	○	(中) 第1四半期実質GDP [前年比]	+9.8%	+9.4%
(金)	11:00	○	(中) 3月消費者物価指数 [前年比]	+4.9%	+5.2%
	11:00	○	(中) 3月生産者物価指数 [前年比]	+7.2%	+7.2%
	11:00	○	(中) 3月鉱工業生産 [前年比]	+14.9%	+14.0%
	11:00	○	(中) 3月小売売上高 [前年比]	+11.6%	+16.5%
	13:30		(日) 2月鉱工業生産・確報 [前月比]	+0.4%	—
			(日) 2月鉱工業生産・確報 [前年比]	+2.8%	—
	18:00		(ユーロ圏) 3月消費者物価指数・確報 [前年比]	+2.6%	+2.6%
			(ユーロ圏) 2月貿易収支	-148億EUR	—
	21:30	◎	(米) 3月消費者物価指数 [前月比]	+0.5%	+0.5%
		◎	(米) 3月消費者物価指数 [コア: 前月比]	+0.2%	+0.2%
		◎	(米) 3月消費者物価指数 [前年比]	+2.1%	+2.6%
		◎	(米) 3月消費者物価指数 [コア: 前年比]	+1.1%	+1.2%
	21:30	○	(米) 4月ニューヨーク連銀製造業景気指数	17.50	17.80
	22:00	○	(米) 2月対米証券投資 [ネット長期フロー]	+515億USD	—
		○	(米) 2月対米証券投資 [ネットフロー合計]	+325億USD	—
	22:15		(米) 3月設備稼働率	76.3%	77.40%
	22:15	◎	(米) 3月鉱工業生産 [前月比]	-0.1%	+0.5%
	22:55	◎	(米) 4月ミンガン大消費者信頼感指数・速報値	67.5	69.0

米主要企業決算発表予定

4/11 Monday	アルコア
4/13 Wednesday	JPモルガン・チェース
4/14 Thursday	グーグル
4/15 Friday	バンク・オブ・アメリカ

※発表日時は予告なく変更される場合があります。

※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com